

「ぐんまベトナムオンライン交流会」開催報告

群馬県では、ぐんまベトナムオンライン Week において、県内大学生と本県在住ベトナム留学生等との共生・共創を推進し、学生の国際的な視野を広げる契機とするため、「ぐんまベトナムオンライン交流会」を開催しました。

オンライン交流会では、「日本人と外国人がより良く付き合っていくためには何が必要か」をメインテーマとして、群馬県内の日本人学生とベトナム人留学生や社会人がディスカッションを行いました。

【開催日時】

令和2年12月5日(土) 10:30~11:30(午前の部)、13:30~14:30(午後の部)

【開催方法】

Cisco Webex Meetings(シスコ ウェブエックス ミーティングス)を利用したオンライン開催

【参加人数】

(午前の部)日本人学生2名、ベトナム人留学生等3名 計5名

(午後の部)日本人学生3名、ベトナム人留学生等2名 計5名 合計10名

午前・午後ともに、DS in Japan 代表取締役 山本雄次氏がファシリテーターを務めました。

【ディスカッションでの主な意見】

(日本人学生:(日)、ベトナム人留学生等:(ベ)、山本雄次氏:(山)と表記します。)

日本と海外(ベトナム)の違い

(日) 海外では、上下関係の違いがあまり分からなかった。どんな年齢の人同士も気軽に接していた。

(山) ベトナムでは名前で相手と呼ぶ。ベトナムでは年齢を大事にしており、年長者をたてる。相手が自分より年上か年下かで呼び方を変える。

(ベ) 誰にでも「さん」付けするのは日本のいいところ。上下関係が無くても呼び方や会話の中で相手を尊重できている。

(ベ) 日本人は相手の気に障ることはしない。相手を尊重する心遣いが行き届いている。一方で、日本は暗黙の了解で話を進めることがあるので、話の内容をつかめないこともある。

(ベ) 留学生からすると国によって文化が違うので、言葉遣いに気をつけるようにしている。ベトナムの文化では傷つけてしまうような言葉遣いをしてしまうことがある。

日本人と外国人がより良く付き合っていくために必要なこと

(日) コミュニケーションは聞くことも大事。聞いた上で自分の意見を発信することを大事にしたい。

(ベ) 互いの立場や意見を理解した上でコミュニケーションを取ることが大事。

(山) 交流会参加者の共通点は積極性。一歩踏み出す勇気を持っている。勇気を持って行動に移すことでお互いに知ることが出来る。

(日) 考え方や伝え方の違いを理解する。相手の価値観を理解することが重要。

(日) 大学生になって実際に外国人留学生と交流するようになった認識が変わった。教育の中に外国人への理解を促進するプログラムを入れると良いと思う。

(ベ) 一步を踏み出して、海外に目を向けてほしい。互いに知る気持ちを大切にしたい。

(日) ベトナム人は家族を大切に、繋がりを大切にしている言葉を聞いて、日本とベトナムが更に強い繋がりになればと思った。

(日) 今回の交流会には、お互いのことを知ろうと言う人が集まっている。実際に町に出てみると外国人への理解を深めようとしている人は少ないように感じる。お互いを知ろうとする姿勢が重要だと感じた。

(ベ) 外国人の立場を理解した上で接していただければありがたいし、こちらかも理解に努めたい。

【交流会を開催にあたってのまとめ(ファシリテーターの山本氏より)】

日本人学生と外国人留学生等が祖国、地元について紹介し、そして他国・地域の良さや素晴らしさを共有できたことがとても良かった。参加者が互いをもっと知ろうという姿勢に感銘を受けた。交流会を通して、国籍に関係なく社会に向き合っている若者たちが、今後の日本を支えていくのだと強く感じた。こうした日本人と外国人の若者たちが接点を持つことで、お互いに対する理解を促進し、誤った認識が解けていくと思う。

【今後の取り組み】

今回の交流会は、ぐんまベトナムオンライン Week の事業の一環として、日本人学生の皆さんとベトナム人留学生や社会人の皆さんがディスカッションしていただく中で、文化の違いやお互いがより良く付き合っていくために必要なことを考えていただきました。他大学、他の国籍の方とのディスカッションに関心を持ち参加していただいた皆さんは、ファシリテーターの山本さんがおっしゃるとおり、「積極性」「一步踏み出す勇気」を持った方です。

群馬県では、今回の交流会の実施内容を生かし、若い世代の皆様が、国際交流に関して「積極性」「一步踏み出す勇気」を持つきっかけとなるような事業を今後も実施してまいります。

オンライン交流会実施の様子

